

## 村上城跡

村上市中心部のすぐ東、標高 135 メートルの臥牛山の山頂付近には石垣や大きな門の跡、物見櫓の礎石が林立している。大名が村上藩を支配した江戸時代（1603 年～1867 年）、250 年近くにわたって村上の町にそびえ立っていた堂々たる城郭の跡である。しかし、戦いで試されることはなかった。

臥牛山が最初に要塞化されたのは 1500 年代前半のことで、武家の対立が地元の武士団を丘の東斜面に城を築かせた。この山城は主に空堀や土塁で構成され、急斜面をうまく利用した防御的なものだった。

初期の要塞は、徳川家が天下を統一し江戸に幕府を開いた 1600 年代初頭に放棄された。徳川は信頼できる家臣を派遣し、村上を含む要衝の地を統治させた。歴代の派遣大名は臥牛山の西に家臣の屋敷を構え、隣接する城下町を拡張した。山の西端には、高い石垣と城壁、扁平な山頂にそびえ立った木造 3 階建ての櫓を備えた城を築かせた。完成までに 50 年以上の歳月を要した。

大名たちは山麓の屋敷、城の敷地の入り口に近い場所で居住し、家来たちが時折山頂を

見回る程度だった。江戸時代は太平の世であったため、城は主に大名の威信の源泉として重要であった。このことは現存する石垣のいくつかの部分に反映されている。その表面は完璧に平滑であり、防御的な利点よりもむしろ視覚的な面白さを加えるために、大きな石が丹念に切り出され、積み重ねられた。

落雷による火災で櫓は 1667 年に焼失したが、城の他の部分は 2 世紀にわたって存続した。

戊辰戦争（1868～69 年）では、幕府軍と新政府軍の間で争われ、村上藩士は敵の進

攻を防ぐために大名屋敷に火を放った。しかし、この城では戦闘は行われなかった。明治天皇

（1852-1912）を元首とする新政府が近代化に乗り出した後、1875 年に解体された。

村上城跡は、急カーブが 9 回ある坂道を登って 15 分ほどで到着する。山頂からはかつての城

下町や三面川、日本海が一望できる。